

奈良県企業の環境問題に対する取り組み状況

(第136回地元企業動向調査付帯調査)

【対象企業：個人事業を含む県内169先】

1. 環境問題に対する自社の考え方・取り組み方針等

「環境問題に対応することは、企業の社会的使命である（当然、取り組むべきことである）」(50.9%)が最も多く、以下「経済的な余裕があれば、環境問題に取り組みたい」(25.4%)、「環境問題に取り組まないと、取引先企業（消費者）等からの信頼が低下する」(13.0%)と続いている。一方、4.7%の企業（約21社に1社）が「（環境問題に）取り組む必要性をあまり感じていない」としている（図1）。

従業員規模別では、「環境問題に対応することは、企業の社会的使命である」が100人以上で70.3%と多い。「環境問題に取り組まないと、取引先企業（消費者）等からの信頼が低下する」は50～99人で27.3%、100人以上で18.9%と特になくなっている。

2. 環境問題に対する取り組み状況

「積極的に取り組んでいる」が14.8%、「ある程度は取り組んでいる」が58.6%となっているが、「ほとんど取り組んでいない」も20.7%と、全体の1/5を占めている。業種別でみると、「積極的に取り組んでいる」企業の割合は、製造業が19.2%と、非製造業（7.7%）よりも11.5ポイント多い（図2）。

【以下の対象：環境問題に「積極的に・ある程度は取り組んでいる」と回答のあった企業124先】

3. 環境問題に取り組む理由（複数回答）

「企業の社会的責任」(63.7%)が最も多く、以下「環境に対する関心の高まり」(46.8%)、「企業イメージの向上」(36.3%)、「コスト削減」(21.8%)、「行政機関からの要請や規則」(17.7%)、「取引先や周辺住民等からの要請」(14.5%)と続いている（図3）。

業種別でみると、製造業では「企業イメージの向上」は27.6%であるが、非製造業では50.0%と同割合が多くなっている。

4. 環境問題に対する取り組み内容（複数回答）

製造業では、「産業廃棄物の発生抑制」(52.6%)が最も多く、以下「製造工程での省資源・省エネ」(36.8%)、「電気・水の使用量の削減」(22.4%)と続いている。非製造業では、「電気・水の使用

図1 環境問題に対する考え方・取り組み方針等 (%)

	対象企業数	経済的な余裕があれば、環境問題に取り組みたい	環境問題に取り組まないと、取引先企業（消費者）等からの信頼が低下する	環境問題に対することは、企業の社会的使命である	環境問題は、行政企業が取り組むべき課題である	取り組む必要性をあまり感じていない	その他	不明
全産業	169	25.4	13.0	50.9	1.2	4.7	0.6	4.1
業種別								
製造業	104	24.0	14.4	50.0	1.9	3.8	1.0	4.8
非製造業	65	27.7	10.8	52.3	0.0	6.2	0.0	3.1
従業員数別								
1～9人	34	26.5	5.9	44.1	2.9	8.8	0.0	11.8
10～19人	33	33.3	9.1	45.5	0.0	9.1	0.0	3.0
20～49人	43	34.9	9.3	41.9	2.3	4.7	2.3	4.7
50～99人	22	18.2	27.3	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0
100人以上	37	10.8	18.9	70.3	0.0	0.0	0.0	0.0

図2 環境問題に対する取り組み状況 (%)

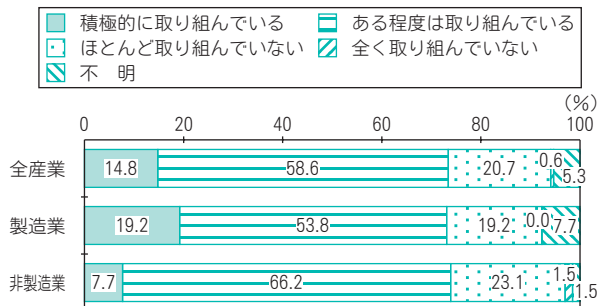
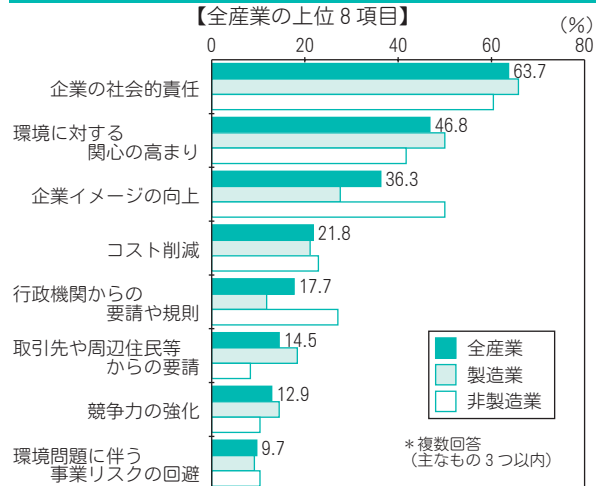


図3 環境問題に取り組む理由 (%)



量の削減」(50.0%)が最も多く、以下「事務室等での省資源・省エネ」(45.8%)、「産業廃棄物の発生抑制」(41.7%)と続いている(図4)。

【以下の対象：全ての企業 169 先】

5. 環境問題への取組み時(取組み検討時)の障害

「経費がかかる」(36.7%)が最も多く、以下「特に障害となるものはない」(16.6%)、「費用対効果がわからない」(16.0%)、「ノウハウ・情報が不足している」(14.2%)と続いている(図5)。

6. 「クールビズ」「ウォームビズ」の取組み状況

① 「クールビズ」〔一般的な実施期間：6/1～9/30〕

「全社的に取り組んでいる」が33.7%と最も多く、「部分的に(一部の期間・部署等で)取り組んでいる」は32.0%、「対応を検討中」は7.7% (図6)。

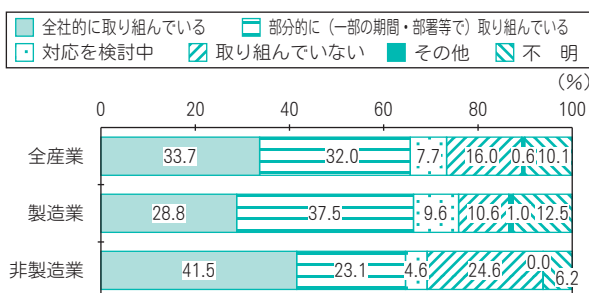
② 「ウォームビズ」〔一般的な実施期間：11/1～3/31〕

「部分的に(一部の期間・部署等で)取り組んでいる」が32.0%と最も多く、「全社的に取り組んでいる」は18.3%、「対応を検討中」は15.4% (図7)。

7. 総括

環境問題への取組み時の三大障害として、「経費負担」「費用対効果の不透明性」「ノウハウ・情報の不足」があがっている。県内企業に対して環境問題への積極的な取組みを促すために、資金面での補助のほか、環境関連のノウハウ共有化や情報提供の強化等の支援が期待される。(島田 清彦)

図6 「クールビズ」への取組み状況



* 「クールビズ」は、ノーネクタイ・ノー上着など夏の軽装運動で、夏のエアコンの温度設定を28℃にする取組み。

図4 環境問題に対する取組み内容

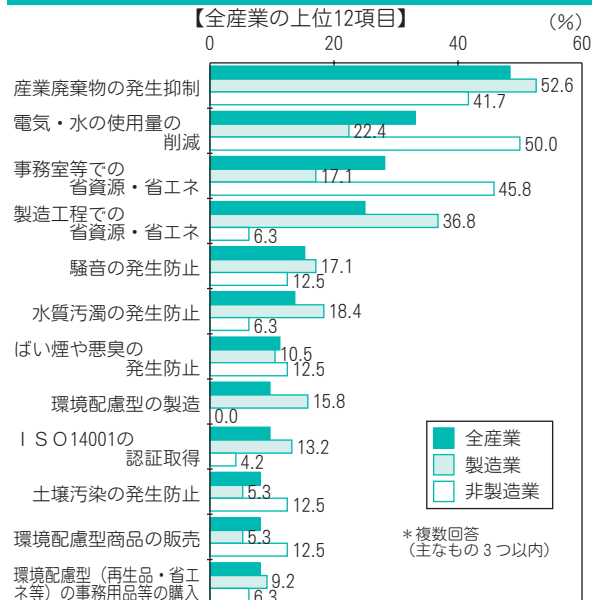


図5 環境問題への取組み時(取組み検討時)の障害

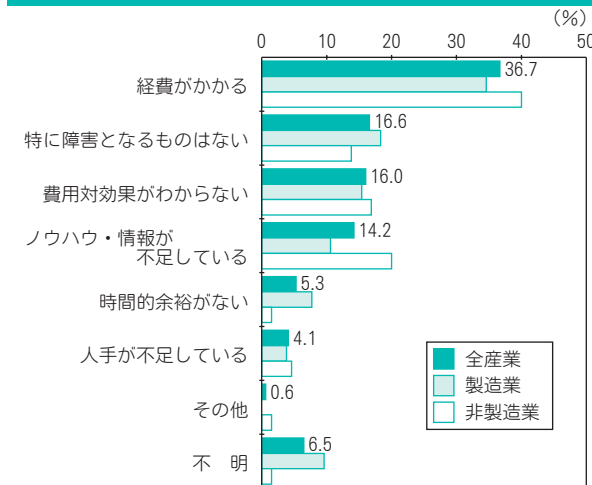
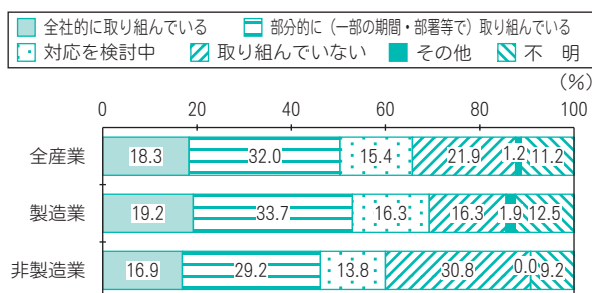


図7 「ウォームビズ」への取組み状況



* 「ウォームビズ」は、保温性の高い衣服を着たり、重ね着をするなどの工夫して、暖房時の室温を20℃にする取組み。